

(A) 北海道科学大学

(所在地: 前田 7 条 15 丁目)

北海道科学大学(旧北海道工業大学)は、1967年に産業界の発展と地域社会の活性化に寄与することを目的に創立されました。2015年に、系列校である北海道科学大学短期大学部と北海道薬科大学が前田キャンパスに移転し、それに伴い新校舎が完成しました。2018年には、北海道薬科大学が北海道科学大学と統合。2023年には、北海道科学大学高等学校が豊平区から移転しています。

7月に開催される「ていね夏あかり」は、手稲の夏の風物詩になっています。



北海道科学大学キャンパス



ていね夏あかり

(B) 前田自作農記念碑

(所在地: 前田 8 条 11 丁目)

昭和6年(1931年)から昭和10年(1935年)に、前田農場で働く小作人の人たちが土地を農場主から買い取り、51人全員が自作農となったことを記念して、昭和11年(1936年)8月に建てられたものです。

最初は新川中央橋近くにあった新川神社のそばに建てられましたが、昭和60年(1985年)8月30日に現在の場所に移されました。



(C) 東宮駐蹕記碑(とうぐうちゅうれんきひ)

(所在地: 前田 7 条 11 丁目 前田公園内)

明治28年(1895年)に前田家15代当主利嗣(としつぐ)が軽川に大規模な農場(前田農場)を開きました。明治44年(1911年)8月、前田農場を当時の東宮(後の大正天皇)が視察され、このとき、農場の庭園内に御便殿(ごべんでん)という休憩所が建てられました。その後、御便殿のとなりに、東宮が行啓(ぎょうけい)したことを記念した東宮駐蹕記碑が建てられました。

平成25年(2013年)10月に、旧前田農場地内にあった前田公園に移設されています。



★がついている写真は、これまでの「前田まちのお宝写真コンテスト」の応募作品です。みんなも応募してほしいです！

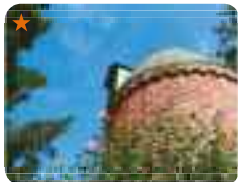
(D) レンガのサイロ

(所在地: 前田 7 条 11 丁目 前田公園内)

サイロとは、穀物などの農産物や家畜の飼料を貯蔵する倉庫です。

前田公園にあるレンガ造のサイロは、旧前田農場で飼料を貯蔵していたものようです。サイロには、「昭和30年8月8日、酒井千代三氏作工」と記載されています。

公園ができる前からこの場所にありました。



(E) 公園の大樹

(所在地: 前田 8 条 10 丁目 三見ぼうけん公園内)

三見ぼうけん公園の奥、旧軽川寄りのところに大きな木がドドーンと立っています。

幹の周囲は5mほどあり、大人が3人で腕を伸ばして、やっと抱えることができる大きさです。

夏の日差しの強い日には、この大樹の木陰の丸いイスに座って休むと涼しいです。



(F) しだれ桜

(所在地: 前田 8 条 9 丁目 松浦家宅地内)

この松浦さん宅のしだれ桜は、40年ほど前に園芸店で入手したものを1983年に現在の家建てた際に植樹したものです。テレビや新聞などでも紹介されており、札幌市外からも花見に訪れるほど有名な桜です。

高さは約6メートルで、枝幅は約8メートルあります。開花時期には、ライトアップされ無数のはなびらが浮かび上がります。

また、旧軽川にある桜は、松浦さんの桜の種を採種し、修景工事の際に植栽したものです。



(G) 桜の欄干の橋

(所在地: 前田 6 条 9 丁目)

この桜の欄干は、1992年12月に旧軽川に架けられた橋のもので、橋の正式な名称は、新稲山橋といえます。春になり、旧軽川の桜並木の花が満開になると、この橋の欄干の桜模様が桜並木の景観にとてもよく似合います。

また、橋の下は遊歩道になっていて、両側に咲く桜を見上げながら散歩することができます。



前田と手稲の 主なできごと

1872(明治5)	・仙台白石藩の人々が上手稲に移住し手稲村が始まる
1873(明治6)	・札幌〜小樽間に道路ができる
1880(明治13)	・手宮(小樽)〜札幌間に鉄道開通、翌年軽川簡易停車場開業する
1882(明治15)	・手稲村は上手稲村・下手稲村・山口村の三村となる
1888(明治21)	・新川が掘られる ・手稲(軽川)と石狩(花咲)を結ぶ道路ができる
1891(明治24)	・星置の鳥谷部弥平治さんが手稲山で金の鉱脈を発見
1895(明治28)	・前田利嗣侯、前田に農場を開く
1911(明治44)	・皇太子殿下(後の大正天皇)前田農場を視察
1912(明治45)	・日本石油製油所が軽川で開業
1922(大正11)	・軽川〜花咲間に馬車鉄道が走る
1934(昭和9)	・札幌〜小樽間に省営バス開通
1935(昭和10)	・手稲鉱山が本格操業開始
1936(昭和11)	・「自作農記念碑」が建てられる
1938(昭和13)	・前田農場が歴史を閉じる
1942(昭和17)	・地名として「前田」が定められる
1951(昭和26)	・手稲村から手稲町に変わる
1952(昭和27)	・軽川駅から手稲駅に名前が変わる
1953(昭和28)	・前田11-10近辺で土器が見つかり、翌年、手稲遺跡として調査される
1957(昭和32)	・手稲山に初のテレビ放送塔ができる
1965(昭和40)	・手稲鉄北小学校開校 ・テイネオリンピック・スキー場開業
1967(昭和42)	・手稲町が札幌市と合併 ・北海道工業大学(今の北海道科学大学)開学
1971(昭和46)	・札幌自動車道(札幌バイパス)開通 ・手稲鉱山が閉山される
1972(昭和47)	・第11回冬季オリンピック開催、手稲山がアルペン競技とそり競技の会場になる ・札幌市が政令指定都市になり、手稲町は西区手稲に
1976(昭和51)	・手稲高校新校舎が落成し移転
1978(昭和53)	・前田小学校開校
1979(昭和54)	・前田会館ができる ・下手稲通が石狩手稲通まで開通
1980(昭和55)	・前田北小学校開校 ・西区体育館(現在の手稲区体育館)完成
1982(昭和57)	・前田中学校開校 ・手稲駅北口が開設され前田方面の利便性が向上 ・「ていねブルー」完成
1984(昭和59)	・前田公園で遺跡の発掘調査が行われる ・手稲郵便局が富丘から前田へ移転
1986(昭和61)	・前田中央小学校開校
1987(昭和62)	・手稲溪仁会病院が開院
1989(平成元)	・西区から分区し、手稲区が誕生
1991(平成3)	・軽川桜づつみ完成
1992(平成4)	・前田森林公園が10年かかって完成する
1993(平成5)	・前田しらかば児童会館開館
1994(平成6)	・前田北中学校開校 ・手稲暖温水プール完成
1995(平成7)	・下手稲通全線開通
2002(平成14)	・現在の手稲駅開業、自由通路「あいくる」誕生
2004(平成16)	・手稲警察署開設
2009(平成21)	・「ていね」が発見される
2014(平成26)	・「北海道工業大学」から「北海道科学大学」となる
2017(平成29)	・手稲町と札幌市が合併して50周年を迎える
2019(令和元)	・手稲区が誕生して30周年を迎える
2023(令和5)	・北海道科学大学高等学校が豊平区から移転

まちの「お宝」を
探してほしいです〜



前田のお宝イベント

軽川のこいのぼり

毎年4月29日から5月5日まで、軽川にこいのぼりが掲揚されます。

前田橋の上流側から下手稲橋の下流側にかけて、たくさんのかいのぼりが風に吹かれて泳ぐ姿は、前田の名物になっています。



道道石狩手稲線の花植栽

5月下旬に、前田地区の石狩手稲線の歩道街路樹ますに花の苗を植栽します。

植栽は、地域住民や商店街振興組合の方たちが参加して、4000株ほどの苗を一齐に植えていきます。子どもたちも協力してくれています。



地域ふれあい スポーツフェスタ

7月中旬に、前田中央小学校の体育館を会場に開催されます。

親子や園児、幼児も参加でき、運動会とは一味違った楽しいゲームも用意されています。



軽川の魚放流

7月下旬に、軽川の前田橋よりやや下流のところで、魚の放流をします。

近隣地域の親子が参加し、ヤマメを川に放流しながら自然と触れ合います。



前田ふれあいまつり

8月上旬、前田公園を会場に開催される前田地区最大のお祭りです。

出店のほか、地域児童の踊り、歌謡ショー、YOSAKOI、ビンゴゲームなど様々なイベントが行われ、大勢の地域住民が集まります。



前田まちの お宝写真コンテスト

8月から10月にかけて、小学生を対象に、前田の魅力を題材にした写真コンテストが開催されます。

優秀作品には表彰があるほか、応募作品は手稲駅「あいくる」で展示されます。

